

わがまちの 「ちよっといい話」

NO. 6

「道徳のまち笠松」推進会議
(笠松町教育文化課)

○感謝の心

町内在住のMさんは「ありがとう」の言葉を耳にすると、やってよかったなとほっとする気持ちになり、やがて、ほのぼのとした喜びを感じるとおっしゃいます。この「ありがとう」という言葉は、普通にはあることではないの「有り難い」から転じ、**他人の特別な気持ちでやってもらったことに對する感謝の気持ちを表すあいさつ言葉**として使われています。

○やっでもらう」と

同じように感謝の気持ちを表すあいさつ言葉には、「いただきます」「ごちそうさま」もあります。いずれも、他人の気持ちに対する感謝の気持ちを表します。

自分が本来やるべきだと考えている

「ありがとう」のひと言で 人と人の心を交わす！

ことを、他人の気持ちによってやってもらうと、自分が助けてもらったと感じ、感謝の気持ちがわきます。そして、「ありがとう、ございます。」の言葉が多くなります。しかし、いつもやってもらっている、やっでもらうことが、

当たり前のことと感じてしまふようになり、特に感謝の気持ちを感じません。当然のことながら、「ありがとう」の言葉も少なくなりま

○自分のことだけでなく

私たちは、「自分のことは自分でやりなさい。」と教えられてきました。自分のことを自分でやれるようになることは、一人前の人間としてひとつの力をつけることとなります。しかし、他人に助けられたり、好意でやっていただいたりする経験を多くもつと、さ

らに自分のことだけでなく、他人のことも気を配って生活しようとするようになります。

○何回言った？ 感謝のひと言

Mさんは、一日を振り返り、「ありがとう」と言ったことが何回あるかと振り返るとおっしゃいます。本来、自分のやるべきことを他人にやっていただいたという意識とそのことに対する感謝の気持ちは、人と人が心を交わす、そのつながりを一層深めるものとするために大切なことです。